

仙台市泉区における先進取組協議会（宮城県仙台市泉区）

国土交通省 スマートシティモデル事業 重点事業化促進プロジェクト

- 泉パークタウン（約1万世帯の郊外居住地域）における、既存街区での個別技術実証、並びに、新規開発街区での技術パッケージ運用実証を連携させることで、交通をはじめとした全国の郊外居住地域が抱える課題解決の糸口を示す。

■ 対象区域のビジョン

様々な関連分野の先進的な技術等を活用したアーキテクチャを構築することで、地域課題のソリューションシステムを実装し、実施・検証の成果を既存の郊外居住地域へ展開。

■ 対象区域の課題

地域活動や生活利便性の低下が懸念される郊外居住地域であり、暮らしに必要な都市機能の維持・改善や、地域交通の確保、コミュニティの活性化等による持続可能なタウンマネジメントシステム構築が課題。

■ モデル事業の取組み内容

- ①効率的で効果的なモビリティ施策
- ②住民による自立したタウンマネジメント
→公共サービスの効率化と住民にとっての利便性の両立。
- ③地域に根差した魅力あるまちづくり
→面的な広がりがある郊外居住地域ならではの
特徴あるエリアが機能的につながるコンパクトシティの形成。

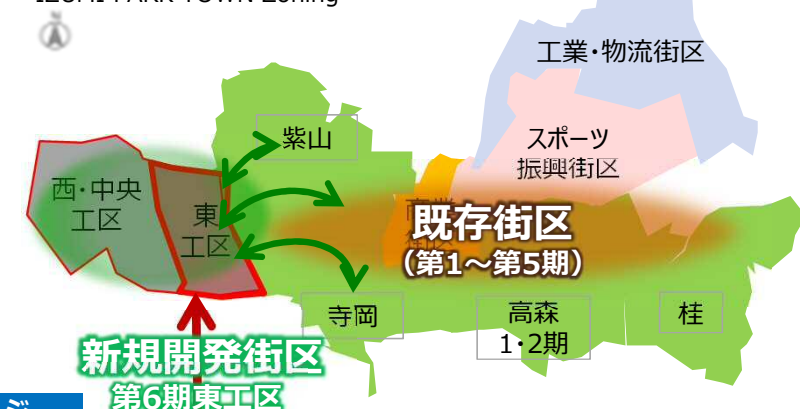
対象区域：泉パークタウン



6km

泉パークタウン全体：約1,074ha

IZUMI PARK TOWN Zoning



東工区(約48ha)：仕組みのイメージ

エネルギー

エネルギーの自産自消

- ・VPPシステムの実装
- ・ゼロ・エネルギー・タウン
→IoT家電連携

※自産自消=コンパクトシティでエネルギーの省創蓄を活用するための造語

自然との共生

人と自然が調和した住環境

- (自然環境保全協定)
- ・開発面積の30%の緑地を確保し、動植物のための自然環境を極力保持する緑化の推進

泉パークタウン LID

住民主体のタウンマネジメント組織

交通・物流

便利でスマートな自動交通

- ・EVシェア拠点構築
- ・スマート物流
- ・次世代エリア交通システム

健康

健やかで快適なライフスタイル

- ・事業者と連携した高齢者、育児向けサービス
- ・ワークアウトパークICT活用
- ・商業施設/店舗の生活ICT連携

安心・安全

安心・安全のスマート機能

- ・非常時エネルギー供給、防災広場
- ・タウンポータルによる暮らしサポート
- ・スマート街路灯によるタウンセキュリティとセンサ等による機能拡張

※L.I.D=Life Improvement Districtの略称
住民主体のタウンマネジメント機能

仙台市泉区
将来課題

効率的で効果的な
モビリティ施策

住民による自立した
タウンマネジメント

地域に根差した
魅力あるまちづくり

地域交通の確保

地域コミュニティの
活性化

暮らしに必要な都市
機能の維持・改善

仙台市泉区における先進取組協議会（宮城県仙台市泉区）

国土交通省 スマートシティモデル事業 重点事業化促進プロジェクト

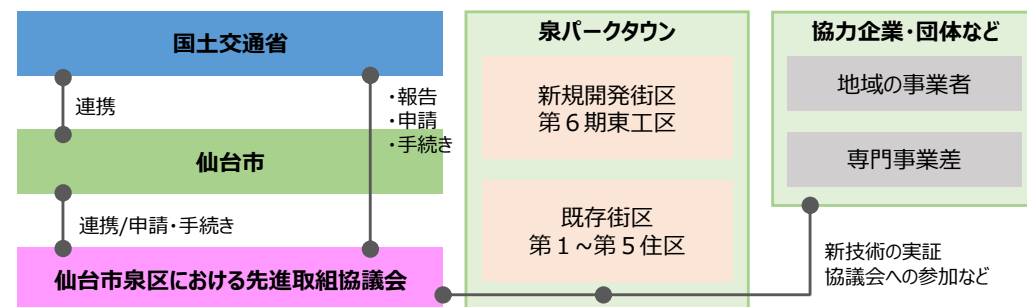
■ データ利活用方針

○ 住民目線のタウンデジタルプラットフォームの実現

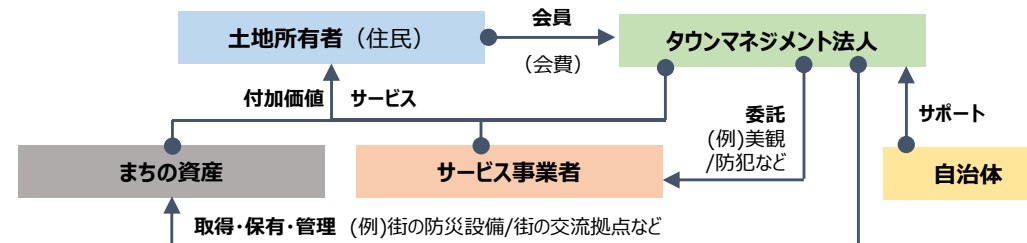
- ・スマートシティアーキテクチャ全体を踏まえた構築で、人のくらし起点の課題解決を支える住民目線の「タウンデジタルプラットフォーム」を実現。
- ・まちでの各種サービスは、原則としてタウンマネジメント組織からの委託を受けた事業者が実現・運営することで、タウンマネジメント組織（住民）、仙台市、各企業間の相互の合意を基に、「タウンデジタルプラットフォーム」を介してデータの連携、活用を実現。尚、第6期東工区（新規開発街区）では、宅地販売時に住民からデータ収集の許諾を得ることも検討し、まち全体での一体的な取組の実現を目指す。
- ・対象区域の抱える課題や、取組・まちづくり施策に合わせ、収集データ項目/接続センサー/サービス等は、連携API等を通し、適宜拡張や新規創出を可能とする。

■ 運営体制

○ 先進的な技術の実証、実装体制イメージ



○ L I Dの考えに基づくまちの運営管理体制イメージ



■ スケジュール

○ スマートシティの実現に係るロードマップ

- ・取組みを実現、展開するために既存街区にて各取組を実証、それらを踏まえ新規街区へのパッケージ導入・効果検証を経て、ショーケースとして既存街区及びその他の郊外居住地域への、全体もしくは部分展開を視野に入れる。

1974（まちびらき）

泉パークタウン第一期～ まちづくり

パークタウンマインド

- ・4つのパークマインド
● 住む、● 働く、● 憩う、● 学ぶ・集う・楽しむ

コミュニティクリエイト

- ・コミュニティ形成重視の街並み設計

シビルライセンス

- ・街にお住まいの方々が主役のまちづくり

2020

スマートシティモデル事業
既存街区での実証

- 個別技術の実証
※住民自治会組織との連携
→住民参加型の実証データ収集

2025

スマートシティモデル事業
新規開発街区での実証

- 技術、サービスのパッケージ導入
※住民主体のタウンマネジメント機能（L I D）
※データP F等によるデータ採取

郊外居住地域におけるスマートシティのショーケース化

2030

ショーケース機能を活かした
既存街区及び
その他郊外居住地域への展開

仙台市泉区における先進取組協議会（宮城県仙台市泉区）

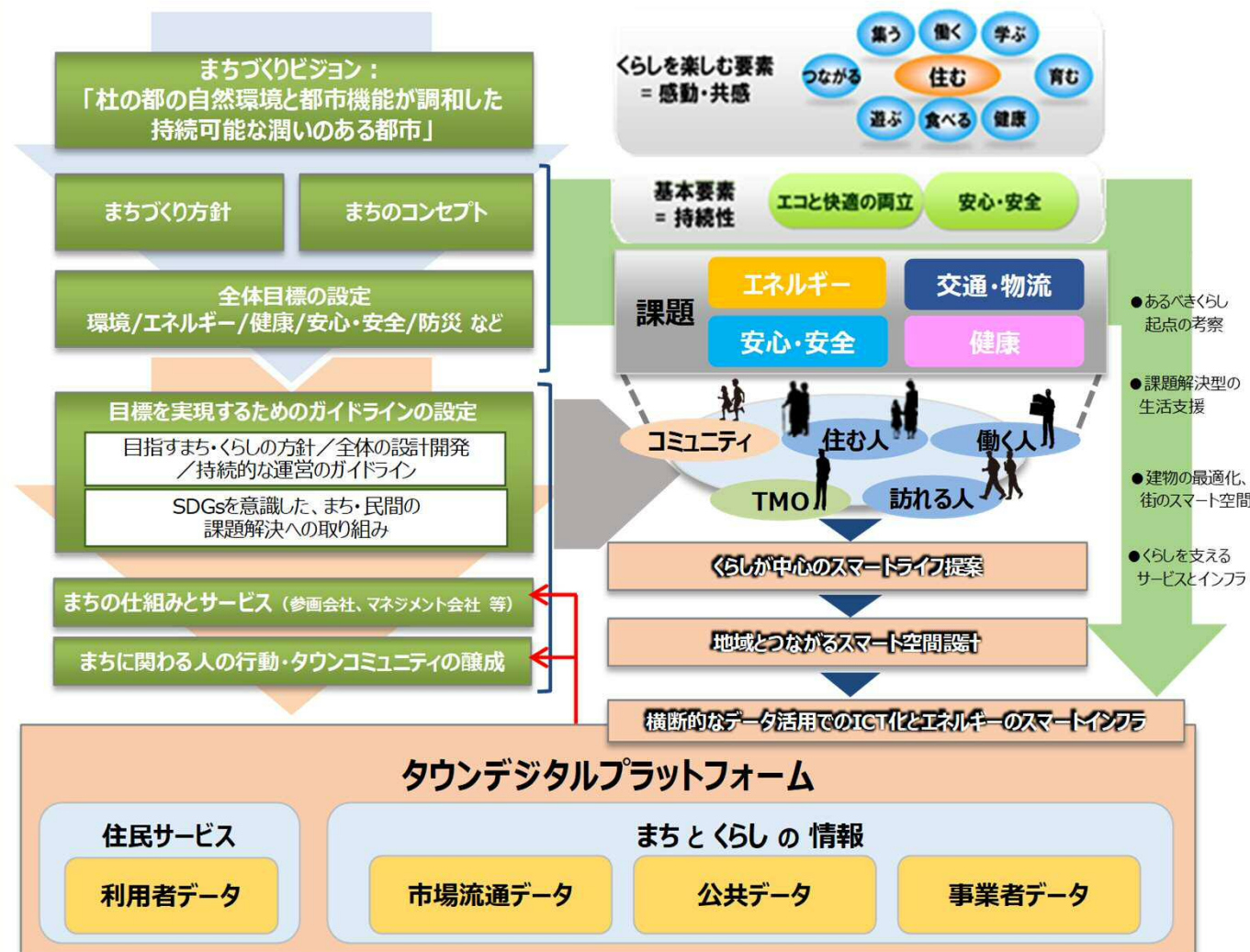
国土交通省 スマートシティモデル事業 重点事業化促進プロジェクト

■ まちづくりアーキテクチャ

- ①基本となる大きな方向性を決め、②まちとくらしの具体的なありべき姿を定め、ベースとして踏まえることで、「人のくらし起点」の課題解決を支える、「住民目線」の「タウンデジタルプラットフォーム」を構築。

①基本となる大きな方向性

②まちとくらしの具体的なありべき姿（3層設計思想）



■ 取組内容の補足

①効率的で効果的なモビリティ施策

地域の公共交通事業者、タクシー事業者、住民の参加を得て、事業者と利用者一体で地域移動データを収集し、利用実態を把握したうえで、公共交通機関の効率化と、シェアモビリティ（地域のコミュニティバスや乗合タクシー、シェアカーサービス等）の考えに基づくエリアモビリティサービスを融合することで、効率的で効果的なモビリティ環境を整備する。

②住民による自立したタウンマネジメント

住民主導による新しいタウンマネジメント組織によるまちづくりを実現し、地域が抱える課題の解決策を、その地域が自主的に考え、自治体と協力して解決することで、自立的なまちづくりが進み、特徴あるコミュニティが形成されるような仕組みを作る。

③地域に根差した魅力あるまちづくり

物流ネットワークを使用したコミュニティサポートを整理し、見守りサービスや、健康、生活支援といった高齢化対応のサービスにつなげる。あわせて、モビリティ施策とも連携し、自動配送技術の検証等、効率的・効果的な配送システムを検証、CO₂削減を図る。また、タウンマネジメント組織が設置する再エネ設備と蓄電池により、地域の防災力強化とCO₂削減に取り組みつつ、新たにVPPにも活用する。